

被災地の子どもと教職員へ、学校と教育の復興へ、全国から支援と激励を！

東日本大震災支援ニュース 第6号

東日本大震災対策本部（全教、日高教、全国私教連、教組共闘）
2011年4月7日（木）

救援カンパのとりくみが広がっています。

届けられたカンパは2000万円を超えました。（4／6）

毎日、全国から救援カンパが届けられています。「校長も快く応じてくれて、今までにないカンパが集まっている」「現地に行けないからせめてカンパを」と、振り込まれたカンパは2000万円を超えました。

このカンパは、まず、3月31日に、全労連に第1次分として200万円を執行。来週、北村全教委員長、加門日高教委員長が、被災地の教育行政に対する「義援金」として、宮城・福島・岩手の各県教育委員会と仙台市教育委員会に各100万円ずつ届け、今後、被災した各市教育委員会へ届ける計画です。また、ノート・鉛筆など学用品に使っています。

青森高教組速報 No. 13 より（3／29付）

●送別会費の一部を支援に！

25日、県内のほとんどの学校で修了式が行われました。青森市内の某高校では送別会を中止し昼食会を行い、差額の一部を被災地への支援金として送ったそうです。この週末も八戸地区では、瓦礫の片付け作業にたくさんの先生方が参加していました。お疲れ様です。

●生徒達の募金活動活発に！

上北地区の某高校では、生徒会が中心となって募金活動に取り組み、日曜日だけで三十数万円の募金が集まったそうです。

支援物資の「品目リスト」が、24品目に変更になりました。

支援物資の「品目リスト」については、変更のつど、全教ホームページにアップします。36品目をお願いしていましたが、24品目に4月6日付で変更になりました。現地の状況は時々刻々、変化しますので、全労連で毎週検討し変更していきます。

ご協力よろしく申し上げます。

**韓国全教組キムさん(国際局長)から全教へ見舞いのメッセージが届く
「韓国で何をすべきか教えてください。」**

私は、地震のあった日本の状況を心配しています。

私は、テレビのニュースを見て、私の友人であるあなたたちのことがとても心配です。

私は、地震にあったあなたとあなたの友人たちを支援したいと思っています。

私としては、日本の教師と子どもたちのために、韓国・全教組の組合員が募金を集めることを提案するつもりです。

私が韓国で何をすべきか、教えてください。

私は、いま、あなたが安全でかつ健康であることを願っています。

友情を込めて

キム・スッキョ 全教組国際局長

全教として、仙台に現地対策本部を置き、活動を始めました。

第一次派遣隊(3/30~4/4)、第2次派遣隊(4/6~4/11)を送りました。

3月30日~4月4日、第1次派遣隊を送りました。宮城高教組と宮城県教組からの聞き取り調査、津波被害地域の視察などを行い、宮城災対連や宮城高教組の会議に出席しています。3月31日には、宮城県教育委員会臨時会を傍聴しました。以下は、米田全教中央執行委員の傍聴報告です。

教育委員から、4月1日異動発令や対策について質問・意見が続出

〈宮城県教育委員会の臨時会(3/31)の傍聴録・米田中執〉

臨時会の冒頭、教育委員をはじめ全員が犠牲者に対する黙祷を行い、その後、臨時会が進められました。報告を行った教育長は、県内の子どもや学校関係者、施設設備等の被害状況を明らかにするとともに、子どもたちへの支援策や県立学校の再開のめどを4月21日とすること、被災した学校への加配措置とともに教職員560人に兼務発令を行うことで子どもたちへの対応をさせることなどを明らかにしました。教育長の報告に対して、他の教育委員から多くの質問や意見が出されました。

- ◆「教育長の報告では被害をこうむった先生方への支援策が出ていない。先生方の家族が被災者になった人もいると思う。わたしの会社では、家族を探し回っている者を年休扱いにせず、出欠関係は不問にしている。また、強制的にも休ませている。県教委はどうしているのか。」
- ◆「県立学校は4月21日を目処に新年度の準備を進めるとしている。一つの目標と教育長は言われたが、全県的に集めて授業を始める上で、校舎などの安全確認を十分におこなったのか。」
- ◆「4月21日を目安とすることだが、小中学校では4月8日、11日などとなっている。先生方の準備が整わないことはないのか、教員の配置が間に合うのか。被災した教員の異動に問題はないのか。」
- ◆「教員に兼務発令をするということだが、異動する教師は不安だと思う。被害に大小があり、どの学校にいつまで勤務し、その後転勤するのか、ということを決める権限はどこが持っているのか。」
- ◆「教員に兼務発令をする判断は各市町村と言うが、各市町村教委にその機能はあるのか。それが十分でないところへの支援は考えているのか。市町村教委の状況把握はできているのか。」
- ◆「先生方の通勤手段をどう考えているのか。」
- ◆「教育長は、一つ一つの地教委を尋ね歩いて、実際に目で見て頂ければと思う。」

これらに対して教育長は、「弾力的」、「柔軟に」などの言葉を使ってあいまいに答え、その場をしのぐという態度が見られました。また、「県や県警の人事はどうなったのか」との質問には、「知事部局は、管理職の退職者への穴埋めのために最低限の人事異動は行ったが、それ以外は様子を見ている」と答えるなど、県教委が4月1日に行った人事異動や兼務発令が知事部局と比べても異常であることが明らかになりました。

さらに、「亡くなったり、行方不明にはなっていないけれど、住居が流された先生の数、家族や子どもを亡くした教師の数は拾い出せないものか」という質問に対して、「教職員で亡くなった方、行方不明の方の数を確かむのに精一杯だった。手が回っていない。住居のことについて、今、調査をしている」と答えるにとどまりました。

このような事態把握の遅れと強引な人事異動が、「亡くなられた先生に4月1日付で辞令が出される」など、あってはならない県教委の失態を生む原因ともなっています。